



# おじさんズ通信

2021年2月号 (No.3)

発行元：登別市新生町4丁目桃柿通

緑風舎

発行号：おじさんズ3号



## マスクをめぐる妄想

### 【過去】

「あの男、もしかして、コンビニ強盗じゃないか？」  
「どうして」  
「サングラスにマスク、帽子も目出し帽くさい」  
「風邪の季節でもないしな。あやしい〜」

### 【現在】

「あの中年おじさん、マスクしていないな」  
「おっ、自粛警察の若いモンらが取り囲んだぞ」  
「もみ合ってる！ ケンカになるぞ」

### 【未来】

「あのヨボヨボじいさん、マスクしてないな」  
「おい、パトカーが横に止まったぞ」  
「お巡りさん、有無を言わずマスク不装着不携帯違反切符を切ったぞ」  
「じいさん、何のことやら、理解不能らしい」  
「情け容赦ねえな。マスク特措法って」

## マスクをめぐる、お悩み

地元文芸誌に出す創作のテーマを当初、社会派的なものを考えていたが、資料収集が間に合わず、エンタメ系に方針転換。時代設定をコロナ禍の現在にして書き始めたが、すぐさま「うむ、こりゃ難しい」と行き詰まった。

登場人物全員にマスクをつけさせなければいけないのだ。

「目は口程にものを言う」とはいうものの、マスクの向こうの唇も、何かを語っている。感情表現上の重要なエッセンスだ。微笑か、歯ぎしりか、への字に曲げているのか。

「半年前まで、中国人旅行客でごったがえしていた〇〇駅前で」と書き始めて、マスクの壁にぶちあたり、時代設定を三年前まで戻した。さて、プロの作家さんたちは小説の中で、コロナ禍時代のマスクをした登場人物を、どう描くのか、じっくり拝見し、勉強しよう。

## マスクをめぐる功罪

### 【功】

- ・髭を伸ばし放題で、外出できる。無精者には重宝。
- ・出っ歯、味噌っ歯、欠け歯が隠れてよろしい。
- ・顔の下半分の防寒対策に、一役買っている。

### 【罪】

- ・望遠レンズで敵チーム監督のサインを読み解き、味方ベンチに無線連絡する読唇術師は職を失った。
- ・良質マスクを買えないから、メガネが曇る。
- ・木陰で隠れてキスしようとする度に外すのが面倒だ。

## 現実を直視する能力

「確かに言えることは、日本社会は現実を直視する能力に乏しく、慣例と模倣に優れるということだ。なぜPCR検査が不十分なまま現在に至ったのか。京大ウイルス・再生医科学研究所などがあり、優れたウイルス学者や免疫学者がいるのに、なぜいち早くワクチン製造に取り組みなかったのか」

1月31日付室蘭民報朝刊に掲載された「新型コロナと文明」と題するノンフィクション作家・精神科医・野田正彰氏のコラムを読んで目から鱗が落ちた。ローカル新聞に関わっていたとはいえ、こうまで新型コロナをめぐるさまざまな事象を深読みするスベは持っていない。

コラムの書き出しで野田氏は、昨年1月に新しい感染症が中国・武漢で広がっているらしいとの情報が伝わっても、厚生労働省は従来の思考に流され、日和見の構えをとった、と指摘。クルーズ船での感染にも対処療法さえ知らず、13人が死んだ、そして「2月、3月になっても専門家会議は無能だった」と断じている。

全文は紹介できないが、最初に紹介したコラム文末の、ワクチン製造の遅れに続けて野田氏は「コロナ感染症への医療対応を、なぜ全国の臨床医に十分に伝えることができなかったのか。直視しなければならない問題はあまりにも多い」と結んでいる。

政府、官僚・省庁、政治家まかせで、高みの見物を決め込んでいる愚直者の胸に、グサッと突き刺さる箴言の刃だ。

## 手作りジュークボックスの夢

コロナ絡みで「1 Day シェフの店・ともかな」が再休業に入る直前の昨年夏、十数年は親交のあるSさんが、SP盤のレコード3枚を店に届けてくれた。1枚はいわゆるA面が「嗚呼！！花の応援団」。室蘭工業高校の元応援団メンバーということで、探してくれた。そういえば、今年は、母校野球部がたった一度の甲子園に出場して55年。応援団の一員として、甲子園で太鼓を叩いた思い出が蘇る。



ほかの2枚は両面が「登別地獄ばやし」「登別温泉小唄」。もう1枚は、カミさんの母校室蘭カトリック女子高の校歌と聖歌。よくぞ、見つけてきたものだと、Sさんの探偵力にただただ脱帽する。

同封されたコピー紙には、「登別温泉音頭」「登別小唄」「鬼音頭」「オロフレ小唄」「クッタラ湖エレーゼ」「カルルス音頭」といったご当地ソングの歌詞も載っている。

家にはSPレコードが30枚ほどあるが、LP盤に比べると、SP盤は3、4分ほど聴いて、ひっくり返してはセットし直し、レコード針を落とすという手間の繰り返し、何とも面倒臭い。

そこで、閃いた。「そうだ！連続してSP盤を聴けるジュークボックスを作ろう」。新冠町のレコード館が所蔵枚数の量でくるなら、当方は安価で確かな最新式ジュークボックス製造の技術力で対抗しようではないか。お隣は「ものづくりのマチ」を自認する工業都市だ。

ここは、鷹山センセイの「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」で、進撃ラッパの鳴らしどころか。

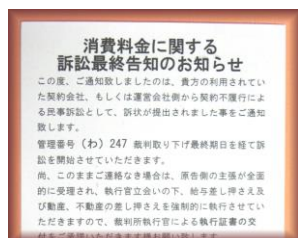


### ご用心、特に高齢者は

2015年からカレンダー機能がストップしている愛用のガラパゴス携帯電話（故障じゃなくて、シャープが2016年以降も動かすプログラムにしていなかった）に1月某日、「ご本人様不在の為お荷物を持ち帰りました。ご確認ください。http://〇〇～」なるメールが入ってきた。

これ、はやりのフィッシング詐欺。うっかり下のメールアドレスをクリックしたら——末路はネット検索でお調べを。「ご本人」の部分が実名ならまだしも、尚且つ、ナントカ急便とかの社名もない。こんなジイ様のガラケーにまで、送り込んでくるとはね。

2年ほど前には「消費料金に関する訴訟最終告知のお知らせ」なるハガキが舞い込んだ。送付元は法務省管轄支局 訴訟最終告知通達センター 東京都千代田区～とある。



笑ったのは「このままご連絡なき場合は、給与差し押さえ及び動産、不動産の差し押さえを強制的に」ウンヌン、カンヌン。おい、おい、自宅の土地、建物なる不動産はあるけど、年金生活でひもじく暮らす老人

に給与などあるわけないだろう。数撃ちゃ当たるか？ 兎にも角にも、こんな手合いは無視するのが一番。どうしても心配なら、まずは家人や知人に相談することですぞ。決して、メルアドをクリックしたり、電話してはイケマセン！

### 一筆啓上

おじさんズ3号は私S・Tの別名でして、「おじさんズ通信」の3号目ではありません。ご理解のほど、よろしくお願いします。

### 薫風 烈風

▶というわけで、「おじさんズ通信」も3合目、否、3号目まで、たどり着きました。カストリ通信で終わらぬよう、次の4号目発行に向け、エイ、エイ、オー。  
▶あらためて「カストリ雑誌」について、ひとウンチク。戦後、雨後の竹の子よろしく娯楽雑誌が発行されたが、多くが粗悪で、たいてい3号で休廃刊したことから、「3合飲むと悪酔いして潰れる」といわれたカストリ酒（粗悪な酒）にかけた名称である、とか。  
▶厳冬ピーク期の2月入り。フォークローバースの「冬物語」をYouTubeで聴きながら「春は近い、足音が近い」と唱和しております。皆さん、お元気で～